５）明石・三木地域

日　　時：平成16年６月20日（日）　14：00～17：00

会　　場：明石市立産業交流センター／研修室２

テ ー マ：「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと、
将来に生かしていくべきことは？」

１４：００　はじめに
（５分）　・あいさつ、趣旨説明

１４：０５　ステップ０：「ワークショップとは？」
（20分）　・ワークショップの進め方
・アイスブレーク（自己紹介）

できるだけ簡単に

１４：２５　ステップ１：「10年間を振り返って」
（40分）　被災地が　・震災後10年間でできたこと、できなかったこと

１５：０５　班別発表
（10分）　・各班２分ずつ

主体感覚が大切！
『あなたが県民として』

１５：１５　～休憩～
（10分）

各班から１人ずつ
代表者を選出する

１５：２５　ステップ２：「将来に向けて」
（40分）

ステップ１の整理
（40分）

被災地が
・将来に向けて生かすべきこと
・世界に向けて発信していくべきこと

１６：０５　班別発表
（10分）　・各班２分ずつ

ステップ１、２の
両方について行う。

１６：１５　～休憩～
（５分）

・重要だと思う別々の
島にシールを貼る

１６：２０　ステップ３：「まとめ」
（35分）　・各班の成果を整理

１６：５５　最後に
（５分）　・総括ワークショップの案内と代表者の決定

・各班２人ずつ

１７：００　終了

・明石・三木地域ワークショップの様子

雰囲気を和らげるアイスブレークから開始

各班で熱心な話し合いが繰り広げられた

積極的に自分たちの話し合いの内容をアピール

ステップ２と同時進行のまとめ

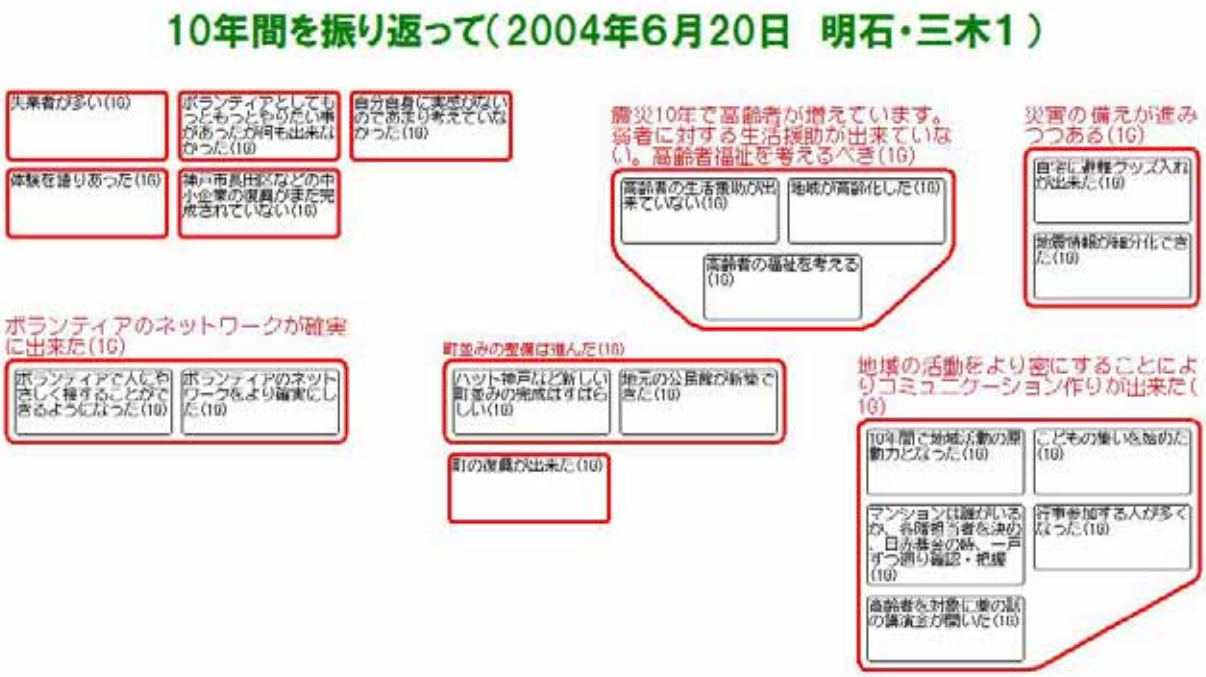
ステップ２でも熱のこもった話し合い

ステップ２についても各班から発表

参加者全員でのステップ２のまとめ

最後は丸シールで投票

・ステップ１：各班のまとめ



10年間を振り返って（2004年6月20日　明石・三木3）

CO2を少なくするために太陽光発電を始めました(3G)

ため池の改修が出来た(3G)

ボランティア組織がスタートした(3G)

- ボランティアグループ・市民クルーラが増えた(3G)
- ボランティア活動が高くなった(3G)
- ボランティア元年ができた(3G)

再建や、ゴミの減量により、美しいまちづくりができた(3G)

- ゴミの減量（地区のゴミ拾い）ポイ捨てが非常に多くて困ったが、婦人会組織で美しいまちづくりができた(3G)
- 徐々の建物が美しく再建できました（息栄元）(3G)

コミュニティの共助精神ができた(3G)

- 助け合いの重要さが理解された(3G)
- 助け合うことの大切さができた(3G)
- 地域支援の強立・拡充ができた(3G)

独居老人の訪問活動を平成元年より続けています。高齢化社会を思うと老人かけ運動が大切だと思いました(3G)

地域整備が進んだ(3G)

- 三木市に震災記念公園ができた(3G)
- 新しい道ができた(3G)

地域整備と防災面の施設整備ができた(3G)

- メモリーマップの作成ができた(3G)
- 人の流れが変わった道路との関係から(3G)

身近な人（友人）との情報交換ができるようになった(3G)

- 高齢化の中で以前の町内会活動に戻っている(3G)
- 近隣の人の（隣保）のまとまりが出来ない（人の移動）(3G)
- 川の改修が残っている(3G)

自主防災意識が高くなった(3G)

- 自主防災組織ができた(3G)
- 地震に対する認識が高くなった(3G)
- 防災意識が高くなった(3G)

10年間を振り返って（2004年6月20日　明石・三木4）

隣近所のコミュニケーションが今まで以上にうまくできるようになった(4G)

- 近所の方との付き合い方が変わった(4G)
- 隣保性をしていくようになった(4G)

人間は動物。震災に水が大切、水の確保に努力したい(4G)

家でもまたタイルにひびが入りそのままになっています。地震があったのだなあと思います。(4G)

コミュニティの再生、活性ができ、CBにも参加しました(4G)

自主防災の確保ができた(4G)

- 自主防災組織が育成できた(4G)
- 地域や職場の中で防災、震災について話し合うことが多くなった。「地区自主防災」(4G)
- 防災計画はできたが訓練が思うように進まない(4G)
- 防災消防団(4G)

ボランティア意識が高まった(4G)

- ボランティアを通して自分なりのネットワークが出来たこと(4G)
- 一人暮らしの方へ気配り目配りができた(4G)
- 私は3年間高齢者、障害者の移送ボランティアをしてきました(4G)
- 記生、老人と話する(4G)

少しずつ建物、風景が復興してきた(4G)

- 三木市にも被災の傷跡があり、しかしかもう今ではなく新しい風景になり年月がたったのだなあと思いました(4G)
- 復興はある程度できている(4G)

婦人会の震災被災の補助金をいただいたと震災の実感がありました(4G)

人の心がまだ出来ていない(4G)

今後何十年間の間に似た様な震災がなきにしもあらずの思いはある(4G)

10年間を振り返って（2004年6月20日　明石・三木5）

防災意識がのばえた(5G)

- 自分の身は自分で守る様になった(5G)
- 常に震災に備えて心準備が出来てきたと思う(5G)

防災意識はあるが実施できていない(5G)

- 耐震診断受けていない(5G)
- 防災用品類を用意しようと思いつつ出来なかった(5G)

消防団活動をしてきた事。これからも災害には消防団は必要(5G)

- 火事だ！警戒の水で放水しました(5G)
- 消防団活動　7．1．17．5．46救援物資活動をしました(5G)
- 震災地で救助できなかった事が一番残念であった(5G)
- 団員をグループごとに集めて震災地に赴き活動ができた事(5G)

個人的にボランティアをする人が増えた(5G)

- 自分自身を含の多くの人がボランティア活動に加わる様になった(5G)
- 当時は色々なことに参加し、頑張ったが今はなにもしていない(5G)
- 復興が出来たかどうか見直した(5G)

震災によって近所に新たな交流がはじまった(5G)

- 震災以降、隣近所の人たちと交流が増えた(5G)
- 人と人とのコミュニケーションが取れる様になった(5G)

個人的建物が整備された(5G)

- 建物に於いて見直し、責任性を高めることが出来た(5G)
- 自宅の修理が応急のみ(5G)
- 自分の家が被害がなかったので不幸中の幸でなかったかと思う(5G)
- それぞれの住居ができた(個人的に)(5G)

仕事がなくなった事や独身になるなど生活環境が変わった(5G)

- 仕事もなくなった(5G)
- 独身になった(生活環境が変わった)(5G)
- 多くのボランティア団体でできた(5G)
- 保育園の復旧に苦慮、子供たちの受け入れに時間を費やした(5G)

震災後、住民間の交流はあったが最近はなくなりつつある(5G)

- 地域のコミュニティ(近所付き合い)が少なくなった(5G)
- 復興住宅での心ふれあいや交流はまだまだ必要(5G)
- 精神的なものはまだまだいやされていない(5G)

ビルなどの建物が多く建つようになった(5G)

- 建物は元通りになったがあもむきがなくなった(ビルが多くなった)(5G)
- 都市の外見上は大体元の姿になった(5G)
- 復興住宅等多くの住宅が出来た(5G)

10年間を振り返って（2004年6月20日　明石・三木6）

復興支援を継続している(6G)

- ボランティアセンターの設立ができた(6G)
- 花と緑の植え付けにいった(6G)

当時は自分たちのことだけで、精一杯でボランティアができなかった(6G)

- 心ふれあいの祭典会場へ行ってボランティア活動ができなかった。（仕事の都合で）(6G)

復興支援ができた（震災直後）(6G)

- ボランティア・毛布・衣類をたした(6G)
- 炊き出しが出来た(6G)
- 被災地へ行って耐震診断に従事した(6G)

家族の防災意識が高まった(6G)

- 家族の避難場所を決めた(6G)
- 家族への連絡ができた(6G)
- 家庭内の非常持ち出し袋を作った(6G)

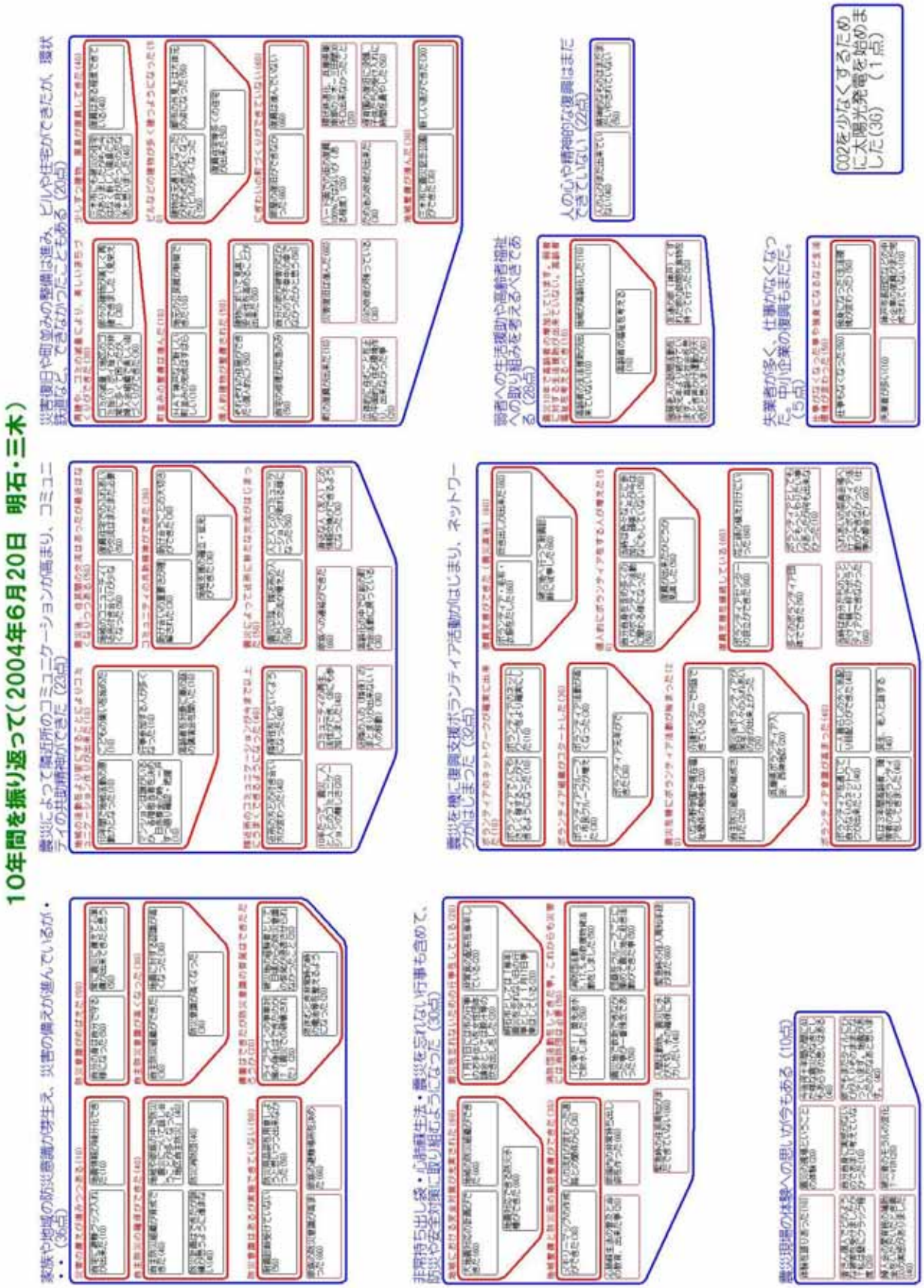
地域における安全対策が充実された(6G)

- 大地震対応の計画ができた(6G)
- 地域の防災組織ができた(6G)
- 地震対応できる防火水槽ができた(6G)

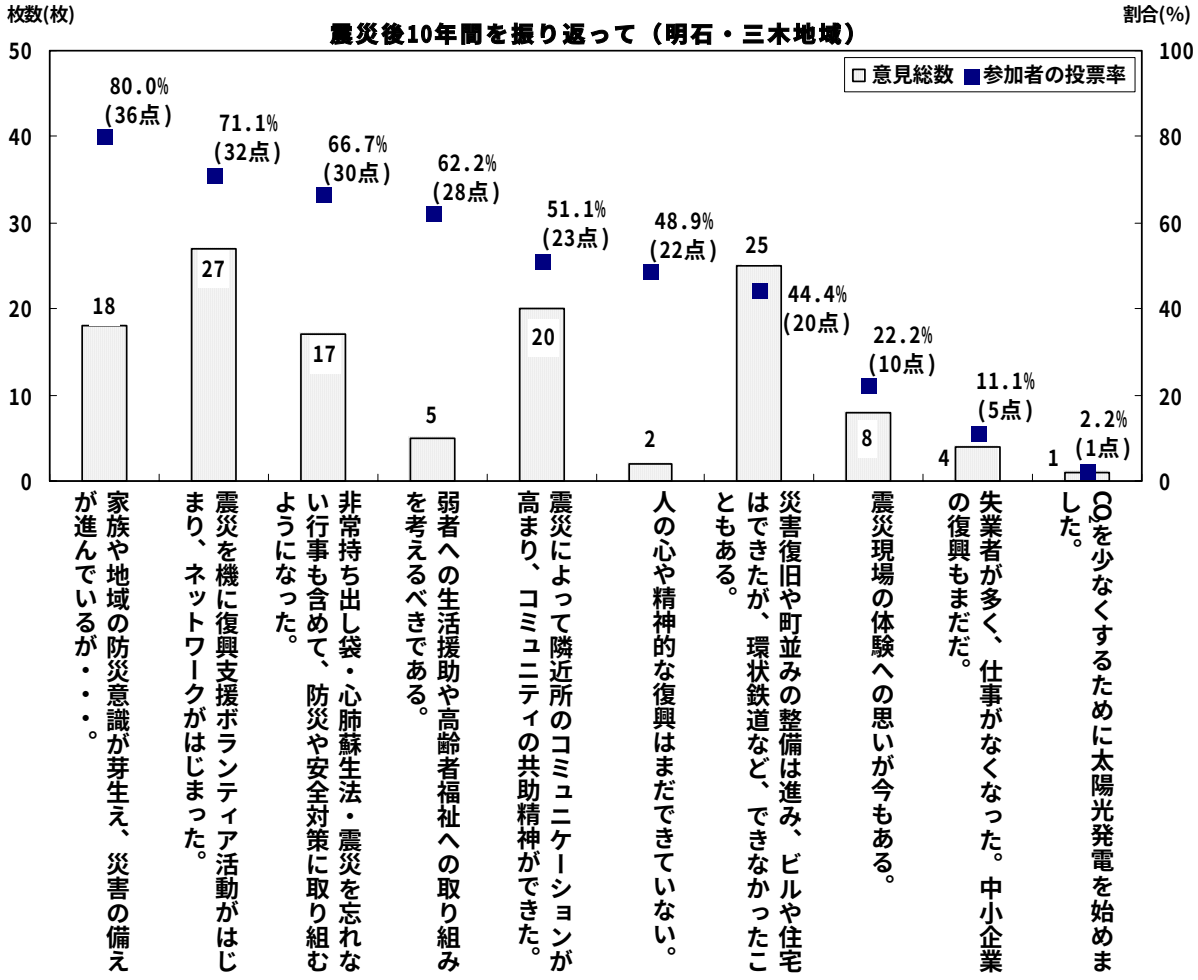
にぎわいの町づくりができていない(6G)

- 家屋の復旧ができなかった(6G)
- 復興はすすんでいない(6G)
- 緊急時の住民周知がまだできていない(6G)

・ステップ１：明石・三木地域のまとめ



・「震災後10年間を振り返って」について



明石・三木地域の参加者45名が、会場全体でまとめた「震災後10年間を振り返って」は、大きく10項目に分類された。その中からそれぞれが重要だと思うものを５つ選び、丸シールを用いて順位付けを行った。

上図をみると、順位付けのない段階では、「震災を機に復興支援ボランティア活動が始まり、ネットワークがはじまった。」に含まれる意見が最も多かったが、順位付けの段階で、「家族や地域の防災意識が芽生え、災害の備えが進んでいるが…。」が重要であると考えた人が多くなっている。

また、「災害復旧や町並みの整備は進み、ビルや住宅ができたが、環状鉄道など、できなかったこともある。」という項目の中には、「ポイ捨てが非常に多くて困ったが、婦人会組織で美しいまちづくりができた」など、地道な活動によりゴミの減量という成果が上がっているという意見もあった。

・ステップ２：各班のまとめ

将来に向けて（2004年6月20日　明石・三木3）

若者を含めた地域が積極的に自主防災を推進していく(3G)

- 自主防災の確立とコミュニティ活動を推進する(3G)
- 自主防災活動を強力に推進する(3G)
- 地域の若者が消防活動に積極的に参加し、自主防災が当たり前に出来るようになりたい(3G)

行政と住民とのバリアフリーの推進（相談・支援等）(3G)

地域支援への助成金の見直しをお願いしたい。（資金等）(3G)

家族の絆を深める。いつどこで集合するか平素決めておく(3G)

人と防災未来センターを最大限に活用する（体験活動等）(3G)

防災の組織を一年一回は確認せよ。地域→県へ(3G)

携帯電話を使用して近隣の人、友人他へ自分発信する(3G)

ボランティア精神を風化させずに、人間関係を大切にしていく。感謝の気持ちを忘れない(3G)

- ボランティア活動の充実、風化させないために！！国内・国外へ(3G)
- 助け合う心の大切さが必要（自助、共助）(3G)
- 防災に対する人間関係を大切につないでいく(3G)
- 防災意識と助け合いの心を生かしていく(3G)
- 支援、応援していただいた多くの人、地域に感謝する気持ちをいつまでもいかしていく(3G)

ライフラインの大切さを再認識する(3G)

- ライフラインの拡充が望ましい環境にする(3G)
- 水の大切さを再認識していきたい（水は無料ではない）(3G)

震災体験復興体験を将来に伝えていく(3G)

- 少子化・高齢化の中で小さな子供達に震災と復興を伝えていく(3G)
- 震災の体験を忘れないようにすること(3G)
- 震災体験者の語り部の方との交流を子供たちとともに学習し、大難を小難にし、命の大切さを考えていきたい(3G)

将来に向けて（2004年6月20日　明石・三木4）

外出困難な人達が自由にまちに出て行ける環境を整備しよう

- 外出困難な人達にとっての交通手段の確保などをしていく(4G)
- 外出困難の人達にとってのバリアフリーの強化をする(4G)

復興基金を継続してほしい(4G)

次世代に若い人達に託します(4G)

地域、自治会を機能的にしていく(4G)

- 各自治会を中心にお互いに考えていく(4G)
- 自主防災の強化「防保」地域づくり、人づくりをする(4G)
- 誰とでも(世界的)相互信頼(挨拶が出来る)にはげむ(4G)
- 単位自治会内での避難所の確保(4G)
- 地域の復興に対して地域が一つになりがんばるしかないと思います(4G)
- 有事の時には避難所などの熱心の徹底をする(4G)
- 連絡伝達の徹底（確認）をする(4G)

人と人とのつながりを大事にしていく(4G)

- より以上に人と人とのつながりを大事にしておく(4G)
- 復興だけでなくふの美しい人づくりをする(4G)
- 近隣が助け合いの精神でけ当合いをすること。人づくりをする(4G)
- 住民が自発的にまちづくり(仲間作り)をする(4G)

将来に向けて（2004年6月20日　明石・三木5）

日々の地域のコミュニケーションを強力にし、困った時に助け合いを！！(5G)

- 近所住民と仲良くするコミュニケーションが大事(5G)
- 高齢者が増えているので、自治会の中でどこの家にわたきりの人がいるかなど、近所のつながりを大事にする(5G)
- 困った時おたがいが助け合う精神を今までより強く持つことが必要(5G)
- 人と人、地域に於いてのつながりをより深めていく。ラ(ボランティア)活動も充実に(5G)

震災を忘れないようにしよう(5G)

- 震災の体験を風化させたくないため、学校・自治会などで震災当時の生活を再現・体験する(5G)
- 大きな災害が発生したときには世界に向けて報告をする。多くの国の災害も同じこと。日本としてなにができるかよく考えて行動を取る(5G)

ボランティアの人材育成とネットワーク化をすすめる(5G)

- みんながボランティアはいいが、何でもかんでもボランティアは少々(5G)
- 高齢化社会に対応するためのボランティアを養成する必要あり(5G)
- 震災時のボランティアネットワークが必要(5G)

- 大規模な災害に備えて、運送会社やコンビニと自治会と協力関係を結ぶ(5G)

消防団をより強力にしていく(5G)

- 消防団として何ができるか考えてほしい(5G)
- 消防団員増していち早く現場に到着できるように(5G)

行政が主導で、住宅・交通・都市再開発などの問題を解決していく必要がある(5G)

- 交通手段と安全性(ヘリポートの様なもの)確保(5G)
- 都市の再開発を進めて密集住宅の解消をはかる(5G)
- 都市公園をもっと多く作る必要あり(5G)
- 賃貸住宅への入居について、将来を見て入居構成を考えてするべき(弱者優先はダメ)(5G)

- 金銭的な行政問題(5G)
- 耐震住宅はこうあるべき、という事を発信して行くべきだ(5G)

将来に向けて（2004年6月20日　明石・三木6）

ボランティア教育の育成と啓発活動(6G)

- 学校教育でボランティア活動の必要性を世界に向けて啓発していく(6G)
- 高齢化社会に対する対策として中学・高校生の活用をする(6G)

地域のふれあい・相互扶助を大切にする(6G)

- 地域間・隣近所の交流、助け合いが必要である。(6G)

- 地域防災体制の確立する（自治会）(6G)

大きな災害を繰り返さないためにも被災体験を伝える(6G)

- 地震発生時の火の始末の大切さを知らせる(6G)
- 後期老人への支援の大切さ(6G)
- 被災体験を引き継いでいく(6G)

情報・連絡体制の整備しておく（個人）(6G)

- 安否確認の確実につなげるようにしてほしい(6G)
- 安否確認の確実に出来るようにしてほしい(6G)
- 情報・連絡体制の整備・家族との安否確認方法を充実させてほしい(6G)

ライフラインの充実させる(6G)

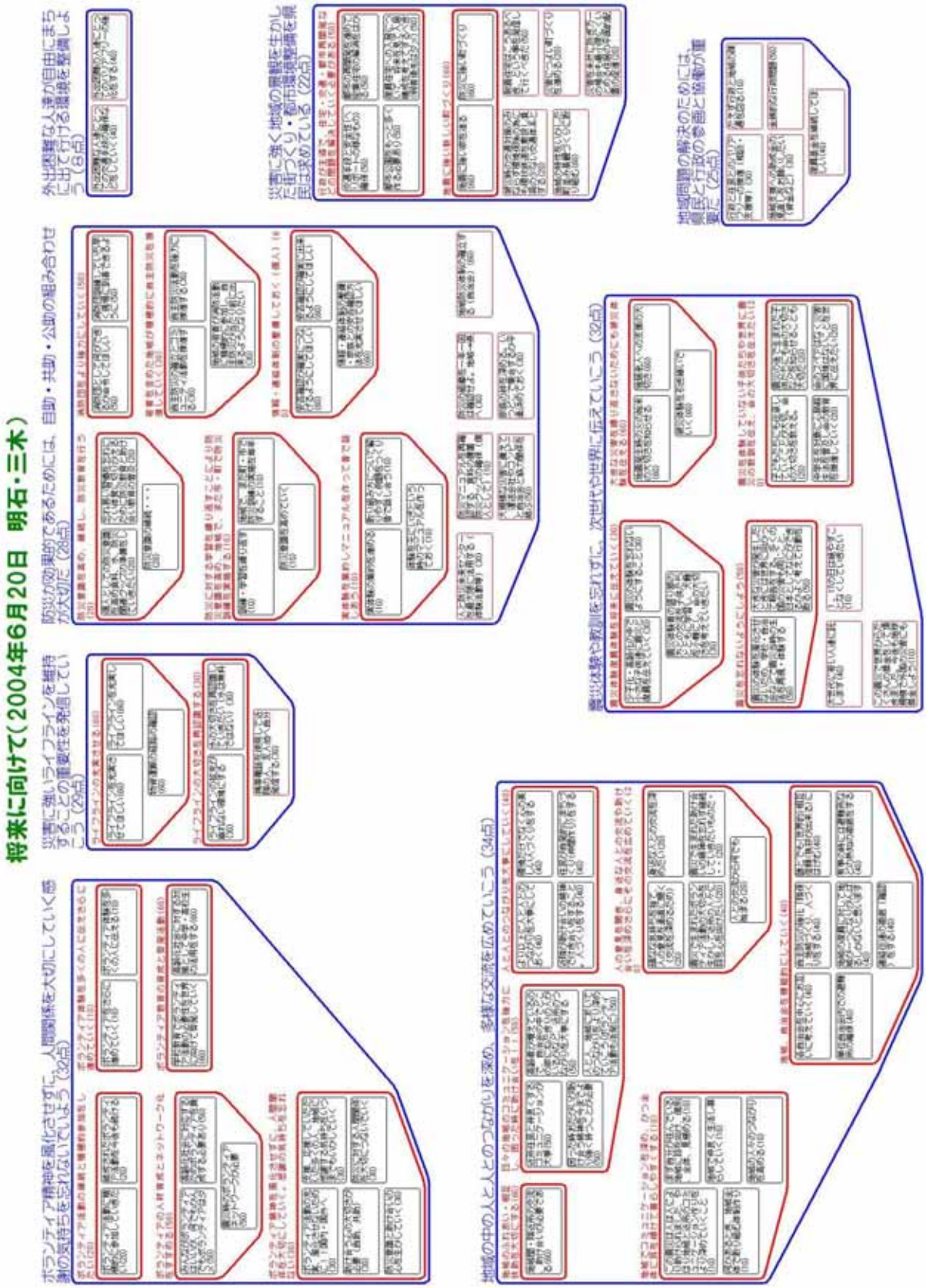
- ライフラインを充実させてほしい(6G)
- ライフラインを充実してほしい(6G)
- 物資運搬の経路の確立(6G)

地震に強い新しい町づくり(6G)

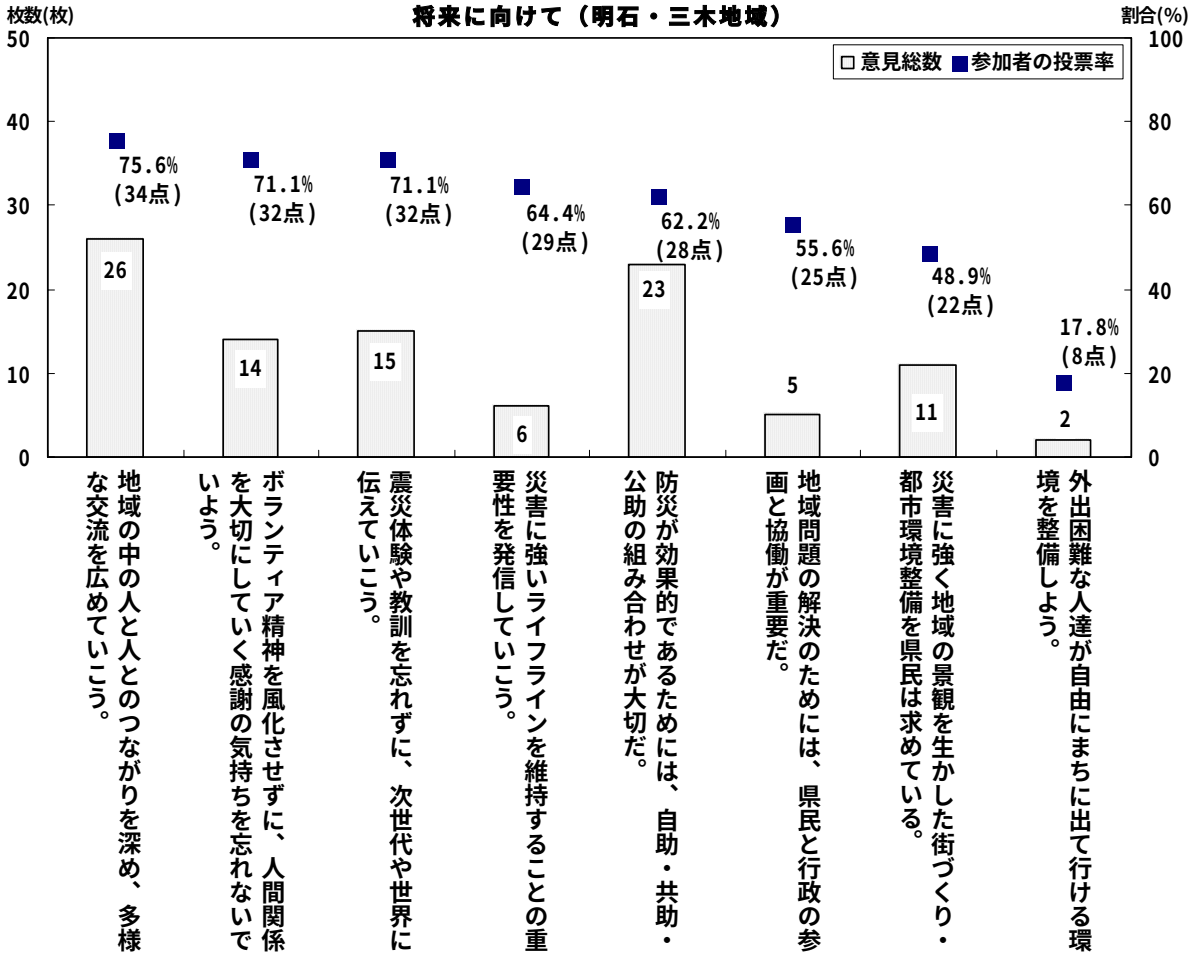
- 地震に強い家を造る(6G)
- 防災に強い町づくり(6G)

- 地域の特性をいかした町並み景観づくりに取り組む(6G)

・ステップ２：明石・三木地域のまとめ



・「将来に向けて」について



会場全体でまとめた「将来に向けて」については、大きく８項目に分類された。その中からそれぞれが重要だと思うものを５つ選び、丸シールを用いて順位付けを行った。

上図をみると、順位付けのない段階では、「防災が効果的であるためには、自助・共助・公助の組み合わせが大切だ。」に含まれる意見が最も多かったが、順位付けの段階で、「ボランティア精神を風化させずに、人間関係を大切にしていく感謝の気持ちを忘れないでいよう。」、「震災体験や教訓を忘れずに、次世代や世界に伝えていこう。」などの方が重要だと考えた人が多かった。

また、「外出困難な人達が自由にまちに出て行ける環境を整備しよう。」という項目の中には、「外出困難な人達にとっての交通手段の確保などをしていく」、「外出困難の人達にとってのバリアフリーの強化をする」といった社会的弱者に対する配慮をしていくべきだという意見もあった。